

(資料1) 令和3年度 磐田市立豊田南小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標(目標数値) ★磐田市小中学校共通評価項目	評価(%)				自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
			子供	保護者	教師	平均			
	自信を育む学校	よいと思ったり考えたりしたことを、自分から言葉や行動に表すことができたか。(90%)	84	86	100	90	A	<p>【考察】 明るく素直でまじめなため、言われたことはきちんと取り組むことができる。そのため、明確に指示や役割を与えられたときは、自分たちで活動することができたと思われる。反面、様々な活動に自ら考えて行動したり、リーダーとなって集団を引っ張ったりする力はまだまだ十分ではない。今年度も、コロナウイルス感染予防のため様々な活動や行事を縮小・制限せざるを得ず、子供たちの主体性を育む機会が減っていたことも要因の一つと考える。</p> <p>【改善策】 コロナ禍においても、失敗を恐れず、仲間と共にくましく活動できるよう、授業や生活場面など日々の教育活動の中で、キーワード「自分から」を意識した取り組みを進めていく。知・徳・体のどの分野においても、主体性の育成や他との関わりに焦点を当てた「重点目標」掲げて取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での行動に多少の不満は散見されるものの、全体的には評価できる内容だ。</li> <li>・「自分から」のキーワードを推進することは必要。思いやりの心を忘れず、たくましく活動する子供達の育成を願う。</li> <li>・学校目標に対し「自分から」というキーワードが浸透している成果であると思う。</li> <li>・児童の84%は出来たと回答しており、良い状況と感じた「それで良いよ」と児童それぞれに言葉で伝えてあげることが更に行動を後押しすると思う。</li> <li>・コロナ禍が早く収まり、子供達が活発に活動できる環境を取り戻してやりたい。保護者の気持ちから、子供達への期待、願望が、アンケートに表れていると思う。</li> <li>・子供の頃から自ら考え行動する力を備えることができれば将来に役立つと思える。そのための教育が大事である。</li> <li>・子供との会話の時間をふやすことが必要。親子間、教師と子供間。</li> <li>・コロナ禍で家庭内における学習環境や生活様式が大きく変化したことによる精神的な不安定さもあって、評価項目のうち毎日の読書や学習時間に対する評価が伸びない要因の一つとも考えられる。</li> <li>・評価で100%はあり得ないこととは承知しているが、未達の部分に何か問題が潜んでいるのだと思う。</li> </ul>
学び合い(知)	学び合いを通し、自ら表現できる子の育成。	毎日、家で(学年×10分+10分)以上は学習していたか。(85%)	76	73	78	76	B	<p>【考察】 学校の勉強が分かっている実感している子供は多いが、授業で自分の考えを表現している割合は目標値に達しなかった。また、進んで勉強していると答えた子供が84%と、十分とは言えない。授業においては、答えが明確な問いには挙手ができても、互いに考えを伝え合い、そこからさらに思考を深めて学んでいくような学習には消極的な子供が多い。学習面においても本校児童の特性が見て取れる。併せて、指導者の教職員側として授業改善の視点を十分に持っていなかったと考える。</p> <p>【改善策】 「学び合いを通し、学ぶ楽しさを味わえる子の育成」を「重点目標」に据え、まずは、教師自らが授業改善に取り組む。子供が試行錯誤しながら、本気になって取り組む課題や発問を工夫したり、学びの過程を大切にしながら単元構想をしたりと、日々の授業でめざす子供の育成を実践していく。学校教育の中心である「授業」で子供を育てるという意識をもち、校内研修と関連付けながら全教職員で取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが、授業や学校活動に対して意欲的に取り組み努力している様子が伺える。</li> <li>・学校の授業を聞き、それを理解(分かる)できる子がほとんどということ、たのしく思う。</li> <li>・学習の内容が分かっていることと、表現するというインプット→アウトプットに対して、全評価とのギャップが少々大きいと感じる。複数の回答があるような問い方にもう少し進んでいけるような取組みも期待する。</li> <li>・パソコンなどによる検索で簡単に答えが出ることが増えたことも問題かと思う。調べる技術の向上は理解できるが、明確な答えの出る問い答えるだけでなく、思考力を生かし、自ら考えて学ぶ事の方が大事だと思う。</li> <li>・コロナ禍により、学校・家庭それぞれに多くの活動が制限され、主体性を育む機会が少なくなったことと思われる。</li> <li>・「間違ったら恥ずかしい」と思っている児童がいると思うので、間違っても大丈夫、人と意見が違っても大丈夫ということを今後も地道に伝えていくことが良いかと思う。</li> <li>・自分の意見や思いを表現したり、他者の意見・思いを受けとめたりする言語力を高めるため、対話や読書を今後もすすめていきたい。</li> <li>・毎日、家で学習することは必要。習慣化するように育成してほしい。</li> <li>・児童の実態に寄り添った支援を今後ともお願いしたい。</li> <li>・子供の貧困や引きこもり、不登校などが影響していないだろうか。私達の活動の中でそれを発見することは大変難しいこともあるし、家庭ではそれを表に出さない傾向もある。個人情報問題もあるが、子供に近い学校側から情報をいただき、見守りなどの中で必要に応じて行政につなげていければよい。</li> </ul>
		★学校の勉強が分かっているか。(90%)	92	84	100	92	A		
		自分の考えを進んで表現(書く・話す)できたか。(80%)	79	69	89	79	B		
		★進んで学習していたか。	84	—	—	—	B		
		毎日読書をしていたか。(85%)	77	67	67	70	C		
認め合い(徳)	認め合いを通し、自分から関わる子の育成	進んで明るい挨拶・会釈をしているか。(90%)	86	75	89	83	B	<p>【考察】 子供・教職員共に、学校内では子供が挨拶・会釈を心掛けていたとの認識だが、家庭や地域に帰ると十分ではないことが数値から分かる。子供が挨拶・会釈の価値や必要性を十分理解して実践できるよう、本当の意味での習慣化をめざす段階にきている。学級や学校が楽しいという子供は多く、子供の「居場所づくり」が、学級経営の中で十分に行われていると言える。</p> <p>【改善策】 「認め合いを通し、自分から関わる子の育成」を「重点目標」に据える。日々の指導において、挨拶・会釈が相手との関わり合いを良好にする手段であることを価値付けたり、子供の特性や良さを認めたりする。併せて、特別活動や授業を通して関わり合う機会を保障し、子供自らが互いに良さを認め合うことを推奨していくことで、自己有用感や自己肯定感を高めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全街頭キャンペーンの際、登校する児童に対し声を掛けると挨拶が返ってくるが、率先して声を出す子は少ない。こちらが言えば応える感じの子が多い。</li> <li>・挨拶・会釈を通じて、子供の心身の状況を察知する機会にしてほしい。</li> <li>・挨拶は登校時の地域の大人たちへ元気づけてほしい。</li> <li>・挨拶・会釈は、学校では出来ていると思う。(大人がもっと手本となることも必要)</li> <li>・学校・クラスが楽しい子供達が大半なのは先生達の指導のおかげだと思う。</li> </ul>
		★ルールを守り、協力し合う学級であるか。(90%)	91	89	100	93	A		
		★学校が楽しいと感じているか。(90%)	86	85	94	88	B		
鍛え合い(体)	鍛え合いを通し、たくましい子の育成	目標をもって体育の授業や体育行事に取り組んでいるか。(100%)	88	80	100	89	B	<p>【考察】 コロナウイルス感染症拡大の影響を最も大きく受けたのが、「鍛え合い」の領域である。接触が危惧される運動や遊びが大きく制限されたことで、元気に体を動かしたという実感がなかったのは仕方ないと言える。いくつかの体育的行事は縮小開催であったが、そのような中でもあてをもち取り組むことを価値付け、きめ細かな指導を継続したことで、子供たちの経験を保障することができた。</p> <p>【改善策】 今後も感染症の影響が危惧されるが、「鍛え合いを通し、たくましい子の育成」を掲げ、日々の体づくりや健康・安全面での指導を通じて、自分から心と体を強くしようとする子供を育てていく。また、どの子も早起きや朝食の摂取を確実に習慣化できるよう、家庭への啓もうや保護者との連携をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にも体力の低下が聞かれるこの頃。コロナでの自宅生活、屋外での活動の減少も大きく影響しているのかと思う。</li> <li>・複数人での活動・行動に制限があり、外で体を動かす機会が少なかったと思われる。</li> <li>・全体的にやや運動不足が見受けられると思う。子供達が楽しく学校、公園で遊ぶように、大人が工夫してあげることも必要ではないか。</li> <li>・休み時間に校庭で元気良く走り回る子供達の姿を早く見たい。</li> <li>・朝食をしっかりと食べ、目標をもって行事に取り組んでいる等、自身の健康管理にも気を付け、行動にもしっかりとした考えをもって対応していると思われる。</li> <li>・評価に保護者や子供の認識に格差があり、評価の違いとして出ているが、家庭内で子供の考えを理解し、認め励ます工夫も必要だと考える。</li> </ul>
		天気の良い日は、外で元気に体を動かしているか。(90%)	71	76	89	79	C		
		自分で決めた時刻(登校1時間前)に起きているか。(85%)	83	75	94	84	B		
		毎朝、朝食をしっかりと食べているか。(100%)	95	93	100	96	B		

しなやかなたくましさ（レジリエンス）をもった子の育成（学府）	目標（めあて）をもち、より良くなるろうと、粘り強く取り組んでいたか。（90%）	84	72	94	83	B	【考察】 3者とも、「子供が自分自身を大切にしていた」と認識している。レジリエンスを高めるには、自己肯定感が土台となる。子供たちに自信をもたせようという学府共通のめあてが、共有されていると言える。	・心身共にたくましい子供に育つ教育環境を推進してほしい。 ・レジリエンスについて、「心の免疫力」「心のワクチン」「心のワクチン接種」「七転八起」などのことばを耳にした。乳幼児期からの地道な積み上げが必要とあり、家族の結びつきの外に、家族外のサポートが可能なシステムや人を地域で充実させていきたい。 ・変化の時代を生き抜くには、色々な経験をしていくことが役に立つと思う。まして核家族化・少子化が進み、家庭内で自然に生じていた経験が少なくなっていると思うので、学校での対応も大変だと思うし、学校以外のコミュニティでの経験も益々効果的だと感じる。 ・レジリエンスは引き続き取り組みが必要な事項で、保護者としてどう接するべきかという将来への啓発という点では課題が残る。
	周りの人や出来事をしなやかに受け止めていたか。（90%）	85	72	89	82	B	【改善策】 レジリエンスをもった子の育成は、不透明な時代を生きる子供たちに必要な力でもある。今後も、PTA学校保健委員会や学府合同研修会を通して、レジリエンスの育成についての理解を深め、家庭と学校で連携して取り組んでいく。	
	自分自身のことを大切にしていたか。（90%）	88	87	100	92	A		
一人一人を大事にする教育	★学校に相談できる人がいるか。（90%）	86	85	100	90	A	【考察】 本校では、日頃から、子供の多様な表れや保護者の困り感に寄り添うことを心掛けてきた。生徒指導の課題に対しては、児童の良さを価値付ける等の未然防止策の実践や、丁寧な初期対応と組織対応に努めてきた。子供の思いを大切にした教職員の丁寧な取組が、子供・保護者に伝わったと言える。	・学校・保護者・子どもそれぞれが信頼関係を築き、学校側の誠意ある対応が継続されていることが、良好な結果を生んだと思う。 ・他のクラス、学年の生徒にも先生方が対応しており、感謝している。 ・ほんのささいな事で心に傷を持つ子もいると思う。いつでも迅速にケアできる体制を整えておいていただきたい。 ・支援学級の子も含めた特別支援教育についての記述があると分かりやすいのではないと思う。 ・不登校・いじめについては、常に配慮して、兆候を見逃さない、しくみを作っておいてほしい。 ・外部機関との連携に対し、学校の取組みをもう少し広報があると良いと思う。
	★個に応じたきめ細やかな支援指導がされていたか。（100%）	89	93	100	94	B	【改善策】 学校には特性を持つ子供も多く、教職員は日々多様な表れの子供と向き合っている。今後も子供理解に努めつつ、SCやSSWなどの専門家や子ども若者相談センター等の外部機関と連携して、一人一人を大切にすることを積み上げていく。	
地域とともにある学校	地域と一体になって子供を育む	—	85	—	85	B	【考察】 参観会などの授業公開や懇談会は縮小せざるを得なかったが、学校便りや本読みカード等の連絡手段により、子供の成長や学校の取組を伝えることができた。また、配慮をしながらではあるが、多くのポプラっこサポーターや見守りボランティアが教育活動に携わった。このような取組により、本校の様子保護者に伝わったと考える。  【改善策】 今後も保護者・地域住民との信頼関係を継続していくよう、保護者の声や地域の思いを教育活動に反映する。また、学府教育とコミュニティースクールを基盤にし、協働の取組を進めていく。	・地域の子ども見守りボランティアによる、登下校時の安全確保や防犯活動等、安全安心な地域づくりが行われている。地域と一体となった良好な関係が継続され、子どもの成長に寄与していると思われる。 ・ポプラっこサポーターは非常に上手く機能していると思う。 ・本来であれば参観会等で現場を見てもらうのが一番だが、この時勢、様々な手段で情報を提供して頂いたことは良かったと思う。 ・地域とのつながりを深める催し等、今後再開できるよう願う。 ・放課後子ども教室や民生委員・児童委員のグループで行った参観会時の児童の託児を状況が落ち着いたらいきたい。 ・実際の活動風景を、便り、HPへの掲載などで、より多くの保護者が楽しく参加できるよう期待している。 ・地域づくり協議会で発行している「交流センターだより」を活用して、学校の情報を、地域に伝達することも、ひとつの方法と考える。  追記 豊田南小・北口門の脇に在った民家を取り壊され、整地になった。土地の管理者から、相談があった。学校の入り口なので学校の土地としての確保が望ましい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

令和3年度はコロナウイルス感染予防のため様々な活動や行事を縮小・制限せざるを得ず、子供本来のよさや力を十分に引き出したり、価値づけたりすることができなかった。しかし、そのような状況下でも、保護者や地域の方々の理解や協力により、各活動の本質を大切にしながら、子供とともに教育活動を推進することができた。「明るく、素直で真面目」「優しく思いやりがある」という本校の子供のよさは、引き続き大切にしていきたい。課題の改善に対しては、真面目に頑張っている子供を価値づける、人と異なる意見も大切であると子供に分かるように伝えるなど、子供に自信をつけることで主体性を伸ばす案をいただいた。また、外部機関との連携や情報発信の大切さなどを御示唆いただき、開かれた教育課程の重要性を再認識した。承認いただいた次年度の教育課程を、誠実に遂行していきたい。